コミュニティくさつ　2012年　春号（通算93号）　編集発行　公益財団法人草津市コミュニティ事業団　URL　http://www.kusatsu.or.jp/

市民がつくるまちづくり情報誌 コミュニティくさつ

2012年 春号

春を待つ山田のビニールハウス。ハウスの中はお先に春です。（写真・大條紘史）

今号のイラスト

絵：大村恵

もくじ

② 遠くの親戚より、近くの他人
③ 高齢者の暮らし 制度やサービスだけでは難しい
④ 自分だけなら「どうでもいいや」って思ってしまいます
⑤ みんなで食卓を囲む
小規模多機能型居宅介護事業所 心
⑥ 取材後記 この街で老いる
⑦⑧⑨ ゆっくり草津街道物語⑯
賑わいと静けさ「本陣・東海道③」
⑩ 俳句散歩「春」
⑪ ええやん ご近所ライフ⑤
身近な食材で食を楽しみ地域の活性化を
⑫ 熊谷栄三郎の徒然草津⑥「老人とコンビニ」他

遠くの親戚より、近くの他人

イラスト　大村恵

市内のとある新興住宅地。ここで民生委員として地域の高齢者を見守ってきたK子さん（60歳）は、民生委員を終えた今でも町内の高齢者を自宅に招いて食事会を開くなど、今も高齢者とのつながりを大切にしています。K子さんに話をお聞きました。

残ってしまうのでね…　おばあちゃんのつぶやき

地元の民生委員を12年間させてもらいました。その縁で町内の老人宅に行き話を聞く機会が増えました。訪問していると高齢者の暮らしぶりや生活事情がなんとなくわかってきます。

お年寄りって若い人のように気軽に外食する習慣はありません。若い人から誘われることだって、なかなかありません。自宅で食事をすることが自然と多くなります。

独居老人に昼間独居、高齢者のみ世帯、老老介護…孤独な食事になりがちです。「鍋料理やカレーなど食べたくても、残ってしまうのでね。なかなか作れない」そんなつぶやきを聞き、自分の料理好きも手伝って、年に数回、自宅に高齢者を誘って一緒に食事をしています。

カレーにハンバーグ、お好み焼きに熱々うどん、そんなたいそうなメニューじゃない。少し頑張って懐石料理ぐらい。それでもお年寄りは喜んでくれます。この前の鍋パーティでは、よっぽど居心地が良かったのか夜遅くまで続いて、「門限つくろうか」なんて笑い話も飛び出して。桜やフジがきれいな季節には、おにぎりを持って公園まで一緒に花見に出かけることもあります。

台所、借りますよ

なにより私が楽しいし元気が出てきます。もちろん「放っておけない」という気持ちがありますが、そもそもお年寄りと食事をしながら話すこと自体が楽しい。

愚痴や自慢話を聞くこともあるけど「聞く」だけでお年寄りは満足気です。大先輩の話はこれからの「自分の生き方」を考える上でも勉強になります。良くも悪くもですけどね（笑）。

だから民生委員の活動とは区別してきたし、任期が終わっても続けられるんですよね。ただの「近所のおばちゃん」として。ボランティア仲間や、嫁いだ娘なんかからも「よくやってるね」なんて言われるけど、好きでやってることだし、分量は多少ちがっても、かける手間ひまなんてそう変わらないしね。

「スーパーの惣菜は味付けが濃いので、毎日食べてると同じ味に感じる」そんな言葉を耳にして、カボチャの煮物・豆の煮物・おでんなど少し多めに作っては、おすそ分けしています。私たちには少し物足りないくらいの薄味で（笑）。粕汁なんか「台所借りますよ」って温め直してあげると、とてもうれしそうな顔をしてくれる。そんな顔をみると、また持って行ってあげたくなりますよね。

遠くの親戚より、近くの他人ってことも

ここの住宅ができて30年。二世帯住まいは少なく、今では高齢者宅が多くなりました。奥さんを亡くされ、おじいちゃん独りの家なんかは特に心配です。朝食にパンをもって行きながら、お弁当の宅配なんかも紹介したりしています。また、買い物に行くのも難しくなってきたおばあちゃんには、ついでがあれば買い物を一緒にしてきたりしながら、家に届けてくれる生協を勧めたりもしています。

高齢になっても、近くに「気にかけてくれる人」がいると思えることは大切。こたとえ独り暮らしになっても「独りじゃないよ」と感じてもらえること。それには「遠くの親戚よりも近くの他人」かもしれませんね。

ずっとこの街で

「私はずっとこの街で、夫婦2人で暮らしていきたいと思ってます。明日は何が起こるかわからない。今を楽しく生きなくては、ケ・セラ・セラよ」と話すK子さんはお花、特にヒマワリが大好きだとか。ヒマワリのような明るさで、今日も「ケ・セラ・セラ」とお年寄りとの食事を楽しんでいます。

ヘルパーさんに聞きました

高齢者の暮らし「制度やサービスだけでは難しい」

ヘルパーとして高齢者のお宅を訪問しています。中には食事の支度をさせてもらう人もあります。「高齢者の食」と言われれば衛生面の心配が先に立ちますね。決められた時間でたくさんのサービス、食事も「つくりおき」して帰るケースが多くなる。「今晩、チンして食べてくださいね。薬も忘れずにね」って感じです。でも、その日の体調なんかもあって、食べきれないときには「もったいない」と感じるのでしょう。残ったものをそのまま保存しておかれたりします。こちらとしては、その日に食べるものを食べられる量で作っていますから、「万が一のことでもあれば」と心配ばかり。梅雨時や夏場は特にですね。次回訪問した際に、「古くなったので捨てましょうか？」と声かけしても、「まだ食べられるし置いておいて」と言われたりします。

また逆に、嫌いなものは食べずに残しておられる場合もあります。せっかく栄養のバランスを考えて調理しても、好きなものばかりに偏ってしまうことがあります。私たちが気づいていないと思っておられるのかもしれませんね（笑）。独り暮らしの方だと冷蔵庫の中の食材の賞味期限が切れていたり、鮮度が落ちていても気づいておられない場合があります。訪問したときに、ご本人にお尋ねして、一緒に整理させていただいたりしています。

つくるメニューは家族から指定があったり、本人のリクエストや冷蔵庫の中身と相談しながら決めます。行事食というか季節感を感じとれる食事も意識しながら、できるだけ楽しんで食べてもらうよう心がけています。本人の故郷の郷土食をリクエストしてくれる時もありますよ。私たちも作り方を知らない場合には「これでいいの？」なんて作り方を聞きながら調理しています。

ヘルパーをしていると、そのお宅が地域とどのように付き合いしてるのか何となく見えてきます。突然、近所のおばあちゃんが家に入ってきて「たくさん作ったから…」と料理をおすそ分けしてくれたりね。私たちヘルパーはあくまで制度内でのサービスしかできません。でも実際に家の中で、高齢者の生活と向き合っていると定められたサービスからはみ出る部分って結構あるんです。だって私たちには仕事でも、その人にとっては生活ですから。私たちが共にするほんの限られた時間でさえ「あれもこれも」と思うことがたくさんあります。でもこれが日常となると到底、制度やサービスだけでは限界を感じます。

高齢になっても、一人ひとりが自分らしく、その街で暮らす。それには既存の制度やサービスだけでは難しい。今こそ隣近所や地域で支えあうことが必要なのだと、ヘルパーの視点からも「食」の切り口からも感じてしまうのです。

市内在住　77 歳　独り暮らし　女性

自分だけなら「どうでもいいや」って、思ってしまいます。

写真はイメージです

市内に暮らすSさんは77歳。ご主人に先立たれ、かれこれ30年の独り暮らしです。週数回のシルバー人材センターの仕事と年金で暮らしています。

料理をしてもハリがない

日々の食事はもっぱらスーパーの惣菜が中心ですね。元々、料理するのは好きな方ではなかったので、夫を亡くしてからは、尚更しなくなりました（笑）。作っても食べてくれる人がいないのって、やっぱりハリがない。自分だけなら「どうでもいいや」って思ってしまいます。

私の町内では配食サービスの案内なんかもきますが、頼んだことはありません。年金生活者には少し高い気がしましてね。

朝食は前日の残り物や「ご飯と納豆」って感じです。昼は職場でパンなどを頬張り、夜にはスーパーのお惣菜。

スーパーの惣菜もバカにできません。最近は煮魚でもなんでも揃ってるし、一人で食べきれる量なのも私たちのような高齢者にはありがたいですね。それでもやはりカレーを食べたい日もあれば、寒い日にはお鍋やおでんだって食べたい。自然と作る量が多くなるので、とまどってしまいます。思いきって作った時には、しばらくそのメニューが続くことになりますから（笑）。

夕方、仕事から帰り、風呂に入ってから食事をとります。テレビを観ながら独りの食事。テレビは夕方のニュースが中心。今では新聞を取るのも止めてしまいましたしね。食事が終わると、観たいテレビもないのでラジオを聞いて、早めに寝床につく毎日です。読書はしませんが、「活字を読まない生活も良くないな」と思い、最近は自動車屋さんがくれるフリーペーパーをたまに読むようにしています。

近所に友だちはいません

近所づきあいはないので、近くに友だちと呼べる人はいません。ただ市内に住む昔の仲間５人で月に２～３回は集まります。昔は旅行なんかもしたけど、今はもっぱら食事会。カレーやお好み焼きなど、それこそ量の必要なメニューをみんなでワイワイと楽しんでいます。

今では５人とも夫を亡くしましたが、いつも声をかけてくれる友だちはマメな人で、よく料理を多めに作っては、「仕事の帰りに取りにおいで」と誘ってくれます。やっぱり美味しいですよね。

惣菜を買うスーパーは職場近くなので、仕事帰りに寄ります。最近は少し健康のことも気にしながら歩いて通ってるので、米や野菜など重いものを買うのは休日に車で行きます。

来年の誕生日には運転免許証の更新。そろそろ車も危ないなと感じたりもしますが、あと１回は更新しようかなと思うこの頃です。

みんなで食卓を囲む

小規模多機能型居宅介護事業所 心

そんな当たり前のことが難しい時代だから

お口の体操 あいうえお

「ありさんあつまれア・エ・イ・ウ・エ・オ・ア。かにさんかさこそカ・ケ・キ・ク・ケ・コ・カ…」取材でお邪魔したお昼時、高齢者の元気な声が響きます。まるでアナウンサーの発声練習のよう。「食事の前にする口の体操なんです。したい人だけですが、これを楽しみにしている人もいるんですよ」と説明してくれるのはスタッフの一人、池田佐代子さん。「心」は市内で唯一の小規模多機能型居宅介護事業所として、高齢になっても障害を持っても住み慣れた街で元気に暮らせるよう訪問・通い・宿泊事業を行っています。

ひとくちおにぎり

口の体操の傍ら、広く大きな窓のある清潔感あふれるリビングダイニングではスタッフが昼食の準備で忙しく手を動かします。食材はレシピと共に業者から配達されスタッフが調理します。魚は事前に骨を抜いたものですが、特に高齢者向けのメニューというわけではありません。各自のお盆の上にはネームプレートとペースト食・ミキサー食・普通のご飯など、噛む力や飲み込みやすさなど一人ひとりの状況に合わせた食事になるようスタッフが工夫しています。食べやすい一口サイズのおにぎりにされた膳もありました。

食卓での会話が何よりごちそう

食事に会話を

いよいよ食事。3つの大きなテーブルにこの日は15人の高齢者が座りました。その間あいだにスタッフも入り、みんなで一緒に食事をします。心地よい音楽も流れながら大きな家族の食事風景です。池田さんは言います。「スタッフも高齢者もみんなで食事をしようと始めました。会話のある楽しい食事の雰囲気を作りたかったんです。一緒に食べることで高齢者の食べている様子やスピードもわかるし、誤嚥しないか見ることもできます。好き嫌いがあっても会話しながらなら食べてくださるときもありますしね。何よりもスタッフが周りでバタバタすると利用者も落ち着かないでしょ」だから片付けもみんなが食事を終えてから。食後はスタッフも一緒にコーヒータイムです。どこまでも家庭的な雰囲気が貫かれます。

ごちそうなんてね

近所に住むAさんは92歳。週に4回、シルバーカーを押して通っています。「ここは楽しいですよ。たくさん話ができます。利用者もスタッフもなごやかで穏やかな人たちばかり。程よく楽しませてもらっています。花見に連れて行ってもらったり、喫茶店でぜんざいやパフェを食べたり。週1回のお泊りのときは気の合う人と遅くまでポンジャン（手づくりの絵合わせゲーム）をしているんですよ。歳をとるとね、そんなにごちそうはいらないんです。シシャモの一夜干しとか、ふきのとうの味噌、フナ寿司に熱いお湯をかけたものなんかが大好きで、家でも嫁さんが作ってくれます。」深く皺を刻んだ華奢な手が印象的です。

Aさんは92歳。お元気です

その人の意思とペースで

池田さんにもう少し聞きました。「皆さんここでの食事を楽しみにされているので、食事の中で季節感を出すことも心がけています。みんなでイチゴ大福やお好み焼きをつくったり、お鍋を囲むこともあるんですよ。クリスマス会や敬老会のときは地域の方も招いて一緒に食事をします。またお誕生日には本人から食べたいものを聞いていま

取材後記　この街で老いる

今回は「高齢者の食」をテーマにしました。もちろん一人ひとり状況も違うので、今回取材させていただいた「高齢者の食」はその一例として読んでいただきたい。もう少し言えば、「自分もいつかは…」と他人ごとでなく、自分や家族、大切な人にも関わるテーマだと感じてもらえれば、いいなと思っています。誰しも等しく歳をとるということですね。

さて今回の取材では「食」を取り上げながら、実は地域での「つながり」に話は及びました。薄れつつあると言われる「地域でのつながり」、その結果の一端として今回の記事のような内容があるのだと思います。

たとえば独り暮らしのSさんは数年前に空き巣に入られたそうです。「何も盗られるものもないし、いつ死んでもいい。」と常々思っていたSさん、家の玄関はいつも開けっ放しでした。部屋は荒らされていたものの幸い何も盗られていませんでしたが、さすがにしばらくは家に入るのが怖くなったそうです。

そして昨年の東日本大震災。多くの被災者や遺族の状況を報道で見るうちに、「死」を意識するようになりました。Sさんの息子さん夫婦は広島にお住まい、子や孫に会うのも盆と正月ぐらいです。「もし私に万一のことがあれば…」最近は自分が亡くなった時の諸々の整理を紙にしたためています、一人っきりの家の中で。

街での高齢者の暮らしはなかなか大変です。重いゴミを集積所に出すのも一苦労。近くにスーパーがないと日々の買い物もままなりません。大きな買い物袋を自転車のカゴに入れてふらふらと車通りの激しい道を漕いでいる姿を見かけることもあります。老いることで増える不便・不安・不満・不自由…もう「不」ばかりです。

もちろん、そんな高齢者の暮らしや悩みをサポートするための民間サービスや支援制度もありますが、どうも、高齢者の「不」を取り除くまでには至らなさそうです。そして、そんな高齢者の姿は将来の私たちの姿でもあります。皆さんは、いま暮らしている街で老いを受け入れることができますか。

さてSさん、最近の悩みは風呂場の換気扇。変な音がするのです。でも場所が高くて手が届きません。近所の電器屋さんにお願いしようかとも思いますが、「こんなことぐらいで来てもらうのも…」というのもあって換気扇は使えないままです。以来、すっと風呂場の窓を開けっ放しで換気しているそうです。

（←前ページつづき）

す。寿司が好きな人が多いですね。みんなでケーキを食べることもあります。本人の意思を尊重し、その人のペースに合わせることを大切にしています。食事もしたいときにとる。食べたくない人に無理強いはしないし、眠くなったら横になってもらう。また『もうこの歳だから食べたい物を食べたいようにしてもらえますか』と話されるご家族もいます。よほど重い病でない限り、できるだけ本人が望む味の濃さにして納得する、楽しめる食事をとってもらうようにしています。」

心と心で通じ合う

食事が楽しくできることは生きる力、喜びです。だからいつまでも食事は楽しくありたい。みんなで食卓を囲む雰囲気から生まれる笑顔と笑い声。そんな当たり前なことが難しい時代です。でもここには、そんなことに真剣に心を配る人たちがいました。そしてその人たちを家族のように信頼する高齢者の姿がありました。心と心で通じ合う「心」はその名のとおりハートフルな人たちに満ちています。ほんのりと幸せなで気持ちを感じながら建物を後にしました。

第16回 賑わいと静けさ ～本陣・東海道③～

ゆっくり草津 街道物語

これまで2回に渡ってお伝えしてきた「本陣界隈と東海道」編。今回は料亭「魚寅楼」辺りから歩を進めることにしましょう。完結編です。

みんなの憧れ　魚寅楼

鳴らない鐘と忠犬物語が残る真教寺の向かいには江戸時代、郷蔵がありました。郷蔵とは草津村の年貢米や書物を保管したところです。後に草津村役場となり、昭和29年の草津市誕生から33年までは市役所として使われていました。

東海道と並行した路地、ちょうど夢本陣の裏あたりに小さな神社を見つけました。稲荷大明神と北斗大将軍がまつられ今も地元町内会でまもられています。商売繁盛と火除けの願いが込められているところが宿場町ならではですね。

さて、ご存じの魚寅楼は正式には「双葉館魚寅楼」と言います。江戸のころは旅籠「双葉屋」として、明治以後は料亭「魚寅楼」として本陣料理をもてなしてきた老舗店です。昭和11年ごろに建てられた本館・奥座敷・塀は国の登録文化財に指定されています。市内で最も古い料亭で庭は日本の名庭百選にも選ばれています。「昔は結婚式を立木神社で、披露宴を魚寅楼でするのがみんなの憧れでしたよ。」と当時を懐かしむ観光ガイドの石田さんでした。

魚寅楼の前は「筋違い（すじか）」、ここでも宿場町としての土地の記憶を見つけました。土地の記憶は東海道を横切るいくつかの路地の名前にも残っています。道灌蔵の横が山王小路、街道交流館の横を酒屋小路、魚寅楼の前は本陣小路、本陣横が小川小路…細い路地にまで名前がついているのは、いかに路地と人々の暮らしが結びついていたのかが伺えますね。

魚寅楼の玄関

このあたりの路地には名前がついてます

暮らしの匂いを残す路地

さらに草津川に向かって路地を歩くと傳久寺、真願寺、円融寺とお寺が続きます。江戸時代には草津宿に7つのお寺があり、常善寺を除いてすべて街道の西側に集中しています。街道沿いには税を納める店を並べるので、お寺は街道から少し入った場所に建てられました。また、いざ戦が起これば寺は宿にもなるので、まとまった地に建てられたとも言われています。小川小路のそばを流れる郡上川には以前は今より水かさがありました。そこでゆうゆうと泳ぐ鯉も、それらを楽しげにのぞき込む保育園児の光景も、新草津川の通水でなくなりました。今では欄干に刻まれた鯉がその名残です。

円融寺の周囲の路地を散策します。元町4丁目にある役行者と蔵王権現・不動明王の三体がまつられた行者堂。今

コミュニティくさつはHPでもご覧になれます。

（案内）草津市観光ボランティアガイド協会・石田はま子

郡上川には少し前まで鯉が泳いでいました

でも毎年8月23日に護摩焚きが行われます。真夏の護摩焚き、噴き出る汗で体重も落ちるとか。

干された洗濯物、玄関脇に置かれた親子のものらしい大小の自転車。今も暮らしの匂いが残る路地を歩くと上葺瓦店まで来ました。店の前に並ぶ瓦に目が行きます。古い年号が刻まれたもの、珍しい形をしたもの…一つひとつの瓦が私たちに時代と暮らしを語りかけているようです。

横町に出ると懐かしい格子がある家がまだあちらこちらに残っています。折りたたんだ床几（しょうぎ）も見つけました。夕涼みに腰かけて近所の人とおしゃべりした風景がなつかしいですね。

グラウンドを自分たちの手で

また路地に入り郡上川を遡るように歩くと草津中学校北門跡。現在は閉じられたままです。60年前には、この門から生徒たちが旧草津川の砂を袋に入れ毎日グラウンドに運んでいました。今なら重機や車でする作業を生徒たちが歩いて運んだこと、自分たちでグラウンドを造っていた話に頭が下がります。

そんなことを考えながら、さらに郡上川を遡ります。

草津1丁目辺りは、中央に柳の木が植えられた道沿いに、うどん屋、寿司屋などが並ぶ賑わいをみせた繁華街でした。今では格子のあった風情ある家屋やお店も次々と新しい住宅に替わり、その賑やかさも人々の記憶から薄れつつあります。郡上川の流れを見ながら堤防に向って歩きます。

江戸時代の神宮寺は立木神社の境内にありました。明治の廃仏毀釈により今の地になりました。本尊の十一面観音像、脇には不動明王と毘沙門天が立っておられ、33年に一度開帳されます。平成11年の開帳の際は天台宗・比叡山から新たに来られた住職や近くの寺のお坊さんがずらりと並び、多くの参拝者で盛大に執り行われました。市の文化財に指定されている春日鹿曼荼羅は栗東歴史民俗博物館に保存されています。

昔は繁華街だった草津1丁目付近

土地の記憶は何気なく、しっかりと

ふたたび東海道・横町に出ました。坂道を登りきった所が、江戸から来た草津宿の入口です。登ってきた坂道を振り返ると一直線でないことがわかります。「遠見遮断」といって先ほどの筋違い同様、宿場内を見通せない防御の役割を果たしています。京都側の入口も同じく遠見遮断となっているのでご確認を。

また、注意して見ると家々の並びがギザギザになっていることにも気づきます。これは「のこぎり型屋敷割」と言い、「遠見遮断」の一つです。江戸の記憶は何気なく、でもしっかりと残っているんですね。

横町道標。以前のものには金銅製の火袋がついていた

草津川にかかる橋の手前には東海道としがらき道の分岐点を表した横町道標があります。かつての道標は1816年に日野の豪商・中井正治右衛門が永久燈明代とともに寄進したもので、金銅製の火袋があったそうです。売り手よし・買い手よし・世間よし。「三方よし」の理念で有名な近江商人の足跡を、ここ草津でも見つけることができました。

東海道を挟むように二つのお地蔵さん。横町地蔵と高野地蔵です。横町地蔵は川の氾濫を守るためにまつられ、お堂の横に階段があります。元々こ

（写真）　大條紘史

の高さではなく堤防が積み上げられ昭和42年に今の高さになりました。向かいの高野地蔵は大戸川の護岸工事で見つかったお地蔵さんがこの地にまつられました。当時は田上山が見えるように建てられていたとか。

滝沢馬琴と草津の洪水

ここは旧草津川の渡し場があったところです。今では橋を渡って東海道が対岸へと続きます。名所図会にはこの渡し場と、その向こうに遠く三上山が描かれています。現在でもビルやマンションの隙間からのぞくように三上山が見えます。また昭和のころはここから立木神社方面を見ると7つのお寺が一目瞭然だったといいます。

奈良に都の造営で山の木々を伐採され、山からの花崗岩が草津川に流れるようになりました。川底にたまる花崗岩を時の人々が堤防に積み上げながら、天井川が今の高さになったのは昭和42年のことです。1802年の「享和の洪水」では死者40人・行方不明100人・崩壊家屋300棟と被害の記録が残り、偶然旅の途中で草津を訪れていた滝沢馬琴の日記にも洪水の様子が記されています。

堤防沿いから立木神社方面に目をやると肩を寄せ合うように建つ家々が見えました。宿場を見渡すこの風景、時が経て、まちの様相が移り変わった今でも「草津らしさ」を感じ、どこかホッとした心地にしてくれるから不思議です。

遠見遮断。向こうを見通せない。

本誌編集ボランティア

中井 徹　作品集

草津の風景と小さなカレンダー展

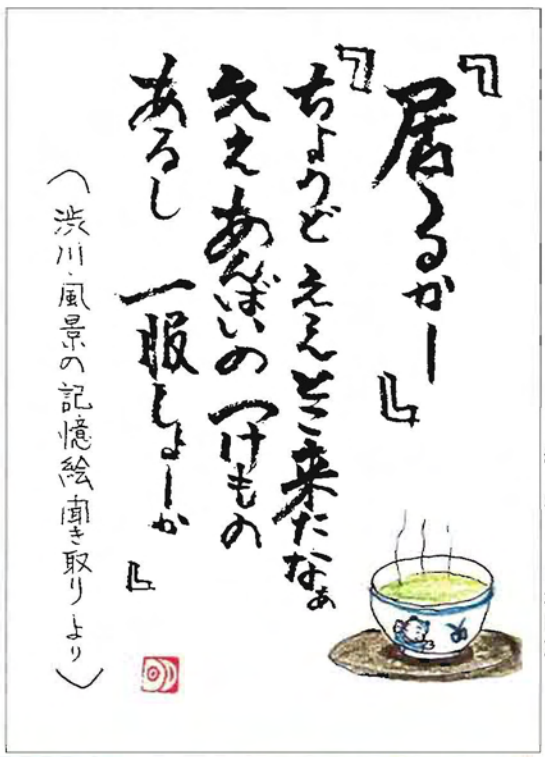
「コミュニティくさつ」に味わいある草津の風景イラストやエッセイを提供いただいている本誌編集ボランティア、中井徹さんの作品を集めた「草津の風景と小さなカレンダー展」が行われます。お楽しみに！

4月17日（火）～27日（金）

集り処 縁（ゆかり）　本陣商店街　旧三井ストア建物跡

10時～18時　入館無料＊23日は休館

連絡問合せ　同館　535-1363　まで



絵と字　中村明雄

俳句散歩　春

俳句では春と言えば、桜や菜の花がもてはやされますが、今日は、地味ながら味のある春の花にスポットライトを当ててみました。それは椿と梅です。両方とも本号が発行される時期には盛りを過ぎていますが、彼女たちの魅力を名句を通して堪能しましょう。（橋詰辰夫）

椿落ちて　きのふの雨を　こぼしけり

与謝蕪村

椿は咲いている姿より、落ちゆく様か散った姿を俳句や歌によく詠まれます。演歌でも悲しい“女のさが”の象徴として度々登場します。これは花がまだいたんでいないのに、花びらを散らすことなく花の根元からポトリと落ちる性質から来ています。良く似た山茶花は花びらが一枚一枚はらはらと音も無く散り、椿とは違った景色を作ります。

さて、蕪村が詠んだこの椿の花も昨日の春雨をたっぷり含んで耐え切れずに、しじまを破って落ちてしまいました。花だけが静かに落ちたのではなく、花にたまった雨水諸共、また木の葉にたまった昨日の雨も一緒に落ちたのでしょう。

花は今日散る時期だったのか、作者が枝を折ろうとしたのか、あるいはヒヨドリかメジロが蜜を吸いに来てその刺激で落ちたのか蕪村は何も書いていません。

このドラマの因果関係は、読者の心象の中にのみ存在するのでしょう。

静から動へ、また無音から突然の音へとそして再び元の静寂に移り変わる様が見事に表現されています。

むめ一輪　一りんほどの　あたたかさ

服部嵐雪

服部嵐雪は江戸の生まれで、芭蕉の弟子の中でも古参の一人ですが、人柄も俳句も穏やかであったと伝えられています。

さてこの句は私が最初に覚えた俳句です。小学生のとき、宿題で俳句を作って持って行くことになりましたが、俳句の“は”の字も知りませんから、少年雑誌で見つけたこの句をそのまま提出したのです。先生の反応は全く記憶にありませんが、この句だけが記憶に残っています。

小学生の私は、数日前から咲きだした梅の花が一日に一輪ずつ数を増し日毎に暖かさも増していく、と解釈していました。しかし、多少は俳句の世界が分かってくると、そうではないことに気づきました。嵐雪は、梅が一輪咲いたその様を見て、春爛漫のようなむんむんした暖かではなく、一りんの花にふさわしい季節感と一輪ほどの暖かさをその時感じ取ったのです。

この句を読む時に「むめ一輪」で一拍休んで「一りんほどの…」と続けると嵐雪の感じ取ったものを理解できます。私が連想していたように、梅が日毎に咲いて、いよいよ春が来るのですが、嵐雪は素直に今咲く一輪の花からほのかな暖かさを詠んだのです。昨日も明日も句の中には存在しないのです。

3．11の一周期を迎えた陸奥の地にも梅が暖かく咲くことを衷心から願って止みません。

文　矢原功

第5回 身近な食材で食を楽しみ 地域の活性化を

お水取りが終わっても、いつまでも寒くて春が遅いですね。

そんな寒さにめげず、庭では今年もちゃんとフキノトウが顔を出し、福寿草の蕾が見えてくる。躍動感溢れる早春の息吹は生きている喜びを感じる時。さて、今回はテーマに関連して「食」の話を少しさせて下さい。

3月18日には鮒寿司の樽開けをして呑み会をした。町内の10名ほどで数年前からやっていて、塩漬け鮒を買ってからは全て自分たちでやる。昨年は、町内の仲間でソバの栽培もしたが、夏に種播きして秋には収穫できる速さが気に入った。

町内には「食」の神様であり、ソバの名人でもあるK氏がいてくれるからできることである。皆で育てたソバを収穫（もちろん収穫祭も）し、石臼で粉にしてソバ打ち。うまいソバを食ったものだ。間引き苗のお浸しは色合いもよく、サラダにも格好の食材であった。

私はこの時期、淡路島まで毎年ワカメ採りに行く。テトラポッドの先はワカメの林。衣装ケース一杯のワカメを採り、友人に届けるのが恒例の春の便りでもある。

野草も全くの健康食。季節感のなくなった野菜と違い、季節の味と香りを届けてくれる。

ツクシはハカマ取りが面倒だが、素揚げにして味塩をパラパラと振るだけでビールには最高のアテになる。誰もが知っているヨモギは、一番簡単な天ぷらを是非ともお奨めしたい。

ノカンゾウは旧草津川の堤防にも多く、もう淡い緑の葉を扇形に広げている。なるべく地中の白い部分から採り、さっと茹でて酢味噌で食べるもいいし、天ぷらにするもいい。

フキノトウは縦に2分して天ぷらにしたり、単に小さく刻んでお澄ましに浮かべるもいい。すでに花が咲くように大きくなってしまったものは小さく刻んで多めの油で炒め、甘辛く味付け後ビン詰めして冷蔵庫保存すれば長く利用できる。苦味を抑えて香りがいいので田楽やフキ味噌に最適。

香りのいいセリやクレソンはその気になれば結構近くで手に入るし、これからは山ウドやノビル、ワラビもいいですね。旬の味と香りを五感で感じ取って欲しいものです。木では、タラノキ、コシアブラ、タカノツメの新芽もこれからですが、葉が広がるほどに多少大きくなっても天ぷらなら大丈夫。

サプリメントやコラーゲンなど、色々な情報が飛び交うご時世であるが、要はバランスよい季節の自然食こそが天が与えてくれる恵みなのでしょう。飽食でメタボや成人病になることだけは避けたいものである。大麦若葉なんて言葉もよく聞くが、ネコがイネ科植物の葉先だけを食べる様子を見ると、身近な健康食を彼らが知っていることを人間がもっと知るべきだと思います。

住民が楽しく出会える機会の一つは祭りであり、そこに食があれば話が弾む。身近な食をともに集め、ともに食べる機会づくりは、隣人の連帯感を生む仕掛けづくりでもあると確信しています。昨年秋に実施した「防災フェスティバル」では、そのような楽しみを実践しました。

恒例の「桜まつり」は4月7日に予定していますが、魚介類の網焼きやシュウマイ、綿菓子などで今年も賑わいそうです。

熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第6回 老人とコンビニ

熊谷栄三郎

この前、七十二歳になった。だからというわけでもないが、その日、アルコールを仕入れようとコンビニへ入った。

缶ビール数個をレジへ運ぶと、若い男性店員が「そこの画面で年齢チェックをお願いします」と、変なことをいった。

カウンターにパソコンみたいな装置が置いてあり、画面に「二十歳以上ですか」という質問と「ハイ」という答えとが表示されていた。二十歳以上なら「ハイ」のところにタッチせよというのである。なんじゃこれ！わしの白髪頭が見えんのか、と逆上しかけたが、我慢して「ハイ」にタッチした。

店員によると、国の方針とかで、近頃そのチェーンではどの店もこの装置を置いているのだという。

ムカムカして店を出た。が、次第に気持ちがほんわかとしてきたのである。だって、七十二歳の老人に「二十歳以上ですか」と確認してくれるなんて、うれしいやないか。

で、次の日、同じチェーンの別の店へ行った。百円の焼酎パック一個を持ってレジへ行き、例の装置を指さして「あれ、やります」と申し出た。なのに若い女性店員が私の顔や頭を見て「いえ、けっこうです」と断るではないか。

「やりたいんやっ」。

「どうしても、なさりたいんですか」

「なさりたい、なさりたい」

と問答の末、やっと画面の「ハイ」にタッチできた。

さらに画面を注視すると「免許証を見せていただく場合がある」旨の表示が読めた。それで免許証を見せようとしたら、「お気の毒ですが、それはいりません」とやられた。

三日に一回は年齢チェックに行く。人相だけでチェックするチェーンが多い。そこで昨日は、野球帽とマスクなどで若作りして行ったが、全然チェックしてくれなかった。次こそ欺いてやろうと、秘策を練っている。

コンビニは今や社会の基盤施設だという説がある。私は老人の憩いの場でもあるという説を唱えたい。

編集後記

▼春がなかなか来てくれません、心にも？草津、大切にしたいです。新しい友も欲しいですね。ね♪（大石）▼遅れていた梅が咲けば桜への期待。やっと春がきました。（中井）▼春はまた巡って来ました。3.11の被災者に一日も早く、物心共々”本当の春”が訪れますように願っています。（橋詰）▼戦後の混乱期を力強く生き延びて国の発展に大きく寄与してきた人々も、齢(よわい)を重ね今は社会のお荷物？たくましい大和魂はどこへ…（大條）▼あたたかな春を感じると心と体がムズムズしてきます。さぁ何をしようかな？（大村）▼「な～んにも楽しみはない。食べる事だけが楽しみですわ」と言うお年よりとお話していると、食べたい時に好きなものを腹いっぱい食べてもらいたい。（辻浦）▼「高齢者の食」といっても「食」の問題だけでなく、買い物や地域のつながりなど色々なことを考えさせられます。自分の老い先はどうしているのだろう。（荒川）▼先日、祖母が亡くなりました。93歳、最期は施設で寝たきり、認知症もあり母の顔も解らない状態でした。家族の食卓と健康を支え続けたおばあちゃん、好物は何だったの？（茶木）

あなたの夢を実現したい！そんな助成金です。

まちキラ★プロジェクト100

昨年末から募集していました上記助成に13の素敵な提案をいただきました。ありがとうございました。厳正な審査の結果、下記の提案が採択となりました。助成金100万円を活用して4月より1年かけて実施されます。お楽しみに!

草津ダンス道場

おどり あるき あそぶ!! 草津ダンス街道

市民編集ボランティア募集！

コミュニティくさつ編集部
（公財）草津市コミュニティ事業団内
〒525-0037
滋賀県草津市西大路町9－6（まちづくりセンター内）
電話　（077）565－0477
ファックス　（077）562－9340
メール　com-com@mx.biwa.ne.jp
URL　http://www.kusatsu.or.jp/

再生紙使用

～地球にやさしいまちづくり～